

令和5年度

経営協議会学外委員からの意見を法人運営の改善に活用した主な取組事例

○イノベーション創出に向けた産官学連携の推進

＜学外委員意見＞

- ・奈良先端大の持つ基礎研究の強みを発展させ、さらなるイノベーションの推進や社会実装に向けた取り組みを強化すべきである。【令和2年度第3回経営協議会】

＜令和5年度における主な取組事例＞

- ・令和6年4月1日付けでメディルクス研究センターを設置することとした。メディルクス研究センターでは、本学が注力してきた AI・バイオ・工学技術の連携と融合による医療技術研究の実績を基盤に、先端光技術との融合による新しい医工連携研究を推進する。幅広い時空間・波長帯の光（電磁波）を駆使した先端光技術を AI・バイオ技術と融合開発することにより、新しい医工学「メディルクス」の発展と先進技術の実装による“Photoceutical”な診断・治療・健康技術への展開を目指す。

○教育システムの改革

＜学外委員意見＞

- ・各大学とも、オンライン授業の実施など新型コロナウイルス感染対策の取組を行っているが、奈良先端大は、俯瞰的な視点から、国内外の大学の動向や情報を収集し、教育システム改革の中核を担うような新たな取組を積極的に行うべきだと思う。【令和2年度第1回経営協議会】
- ・コロナ禍を契機として、今後より一層 ICT を活用した取組を拡充し、グローバル環境の推進を図ることを期待する。【令和2年度第2回経営協議会】

＜令和5年度における主な取組事例＞

- ・高等学校・高等専門学校生徒を対象とした、科学技術イノベーションを牽引する次世代の傑出した人材を育成する教育プログラム「NAIST STELLA」の提供を開始した。本プログラムでは、総合研究大学院大学、国際日本文化研究センター、南都銀行、奈良県、DMG 森精機、米国マイクロソフト等、高い専門性と研究資源を有する研究機関及び、先端科学技術を世界や地域で駆使する企業・機構・自治体等と連携してカリキュラム・指導体制を構成している。開講初年度となる令和5年度は、西日本各地から47名の生徒を第1期生として本学に迎え、学長及び国内外からの招へい講師による講義、連携機関の研究施設等へのサイトビジットを行う「2023年度開講式・スタートアップ合宿」、活動報告・探究テーマ発表会、メンターとの交流会等を行う「ラップアップ合宿」等を実施した。

- ・教育 DX 推進にかかる取組として、新教務ポータルシステム (UNIVERSAL PASSPORT) を導入した。このシステムでは、以前まで別々のシステムで行っていたシラバス参照、履修登録、成績確認、教室予約等が一本化されたほか、システム上で課題及びテストの管理、成績報告等が可能となった。また、オンラインで、海外に留学・出張中でも現地から利用できるため、学生・教職員双方の利便性が非常に向上した。

○広報戦略

<学外委員意見>

- ・これからは地域のつながりということが大事であり、予算を捻出して、地域との共創をしていただきたい。【令和3年度第6回経営協議会】
- ・ブランドというのは非常に大事であるので、常に学長が先頭に立って、ブランド・奈良先端のイメージをいろんなところに広げていく必要がある。【令和3年度第6回経営協議会】

<令和5年度における主な取組事例>

- ・受験生及び地域住民を対象としたオープンキャンパスイベントを毎年実施してきたが、「学長ビジョン 2030」に掲げる地域共創の方針に合わせて、秋に開催している本イベントをより社会・地域に開かれたものとするため、名称を「ナイスポ！ NAIST EXPO」と改め、内容を大幅にリニューアルし、フェスティバル要素を含んだイベントとして開催した。これまでポスター展示、研究室見学、修了生による相談ブース等の受験生向けプログラム、小学生～中学生を対象とした先端科学を体験できるプログラム、中学生を対象とした奈良先端大での講義を体験できる「ミニ講義」等を実施してきたが、加えて地元奈良のプロバスケットボールチーム「バンビシャス奈良」の協力によるフリースロー体験ブース、フリーマーケット、キッチンカーの出店等を新たに行い、本イベントを通じて、子どもを含む地域住民が、先端科学に触れながら交流を行うことができる機会を提供した。
- ・本学の広報活動については、これまで広報担当の学長補佐を責任者とした PT を中心に行ってきたが、大学全体の広報活動をより戦略的に実施するため、広報担当理事を委員長とする常設の広報戦略委員会を設置した。

○自己収入の拡充

<学外委員意見>

- ・寄附金を獲得するためには、クラウドファンディングなど従来のやり方にこだわらない方法を検討すべきではないか。【平成30年度第4回経営協議会】
- ・運営費交付金以外に、何らかの形でお金を稼ぐ方法を考えていかないといけない。【令和3年度第6回経営協議会】

- ・外部から資金を獲得する方法として、企業、自治体、その他との連携などに取り組んでいただきたい。【令和4年度第2回経営協議会】
- ・人材育成面で新たな取り組みを行い、企業のニーズにあった提供をしていくことによって、企業からさらにいろんな支援をいただく、社会的に支援をいただくという努力も必要になってくる。そのために、大学として組織的に取り組んでいくことが必要になる。
【令和4年度第3回経営協議会】
- ・人件費に関してこれからさらに上昇していくことが予想され、物価の高騰もあり、全体に必要な経費は、来年度も上がっていくことは予想されるので、それを補う収入増についてご尽力いただきたい。【令和4年度第4回経営協議会】

<令和5年度における主な取組事例>

- ・令和5年10月1日に「奈良先端大サポーターズクラブ」を設置した。本会は、法人及び個人の会員に本学を継続的にサポートいただくとともに、会員と本学、さらには会員間の連携を促し、交流や親睦、共創による相互の発展を目的としている。企業等に対して広く周知し会員募集を行い、得られた支援を本学における人材育成の取組に活用していく。
- ・令和6年4月1日より、奈良先端大基金の中の特定基金として、新たに「保育所事業基金」及び「メガチップス奨学事業基金」を設置することとした。保育所事業基金は、本学内に開設する保育所の整備及び維持管理のために活用するための基金である。メガチップス奨学事業基金は、株式会社メガチップスからの寄附を原資とし、博士前期課程学生に奨学金の支給を行うものである。